

森林整備効率化支援機械開発事業（継続）

【平成24年度概算決定額 84,500（195,878）千円】

事業のポイント

多様な形態の森林整備や低コストの作業システムに対応し得るような高性能林業機械等の開発・改良を行います。

<背景／課題>

- ・ 全国の高性能林業機械の保有台数は、平成20年度末で総台数が3,474台で、10年前と比較すると約2倍に増加しています。
- ・ 特に台数が多いのは、枝払い・玉切り・集積作業を行うプロセッサ1,086台、運材用のフォワーダ914台となっています。
- ・ 間伐材などの林地残材が年間約2,000万m³（推計）発生してますが、ほとんどが未利用となっています。
- ・ 高性能林業機械の導入が本格化して15年以上が経過しており、今後、機械の廃棄・更新による増加も予想されます。

政策目標

素材生産量に占める高性能林業機械を使用した生産量の割合を平成27年度に6割に拡大（4割(平成21年度)→6割(平成27年度)）

<内容>

木質バイオマスの大規模利用技術の開発

収集・運搬した木質バイオマスを、大量かつ安定的に利用するためには、市場規模が大きい新たな用途を開拓することが必要です。

このため、木質バイオマスを原料として大量に使用し、市場性が高いと見込まれる燃料等新たな用途の実用化に必要な技術の開発を行います。

<委託先>

民間団体

<事業実施期間>

平成19年度～24年度

[担当課：林野庁研究・保全課]